阿賀野川え〜とこだプロジェクト × 阿賀野川エコミュージアム ➡ あがのがわ環境学習ツアー & ツアー&ネットショップ 阿賀の宝ものがたり

新潟県

第34号
2022.3.15

阿賀野川 え〜とこだより
aganogawa E-toko dayori

「ドローンから撮影した、津川の河港跡と阿賀野川の麒麟橋」場所：阿賀町津川

もくじ

特集1　阿賀流域再発見・連続ツアー講座2021
阿賀野川オンラインツアー 開催レポート ―― 2
・イザベラ・バードとドローンが眺めた阿賀野川の歴史・文化・自然・現在、そして光と影
特集2　阿賀の宝もん★発掘レポート（第9回） 5
・新潟イザベラ・バード研究会
特集3　阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム（第10回）ほかお知らせ ―― 7
インフォメーション ―― 8

社会の変化を柔軟に取り入れる地域再生を目指して

デジタル化の次を見据えた地域再生を模索するために

新型コロナウイルスの感染拡大が始まって、およそ2年が経過しました。昨秋には一時的に終息しかけたものの、今冬に再び新しい変異株の感染が拡大し、まだしばらくはウィズコロナの状況が続きそうな気配です。この間、社会の様々な領域がこの状況に対応するため、デジタル化へのシフトなど急速に変化してきました。

今号でも特集しているように令和3年度のFM事業（※1）においても、これまでのバスツアーや対面式イベントに代わる新しい試みとして、ジンバル（※2）カメラやドローンを駆使して撮影した阿賀野川の動画を眺めながら、流域の歴史や現在を多角的に解説していくオンライン配信イベントを開催し、様々な方々から視聴していただきました。

令和4年度は、社会的なデジタルシフトの流れがさらに加速しつつ、新型コロナウイルスの感染状況の変化に合わせて、リアルとデジタルを融合させた試みが活発になると思われます。FM事業でも、こうした社会の変化を柔軟に取り入れながら、今後も新しい地域再生の推進を目指してまいります。

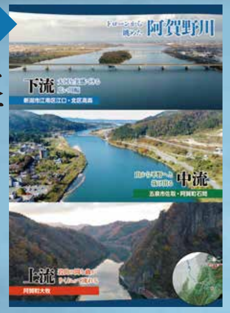
※1「阿賀野川え〜とこだプロジェクト」のこと。詳細はP.8参照。　※2動画を撮影するカメラの手ぶれを画期的に補正する機器

この情報誌は環境省の補助を受けて新潟県が発行しています。

まだまだ開催中！

令和3年度パネル巡回展

近年開催したイベントの成果を生かして、阿賀野川流域の水との闘い・水の恵みを、下記のとおりまとめたパネル作品です。

1 大河とドローン


2 大地の形成

3 イザベラ・バード

4 治水と用水

5 大河と産業

▶今後の展示案内
※両施設とも観覧無料

展示期間
3/12(土)〜3/30(水)
9:00〜16:00

展示会場
道の駅「阿賀の里」

展示期間
4/16(土)〜5/15(日)
9:30〜16:30 ※月曜日は休館日です。

展示会場
県立環境と人間のふれあい館

「阿賀野川え〜とこだプロジェクト」とは？

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」（略称FM事業）と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」をつむぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川え〜とこだ！憲章（事業理念）

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。　（阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会）

編集後記

第34号はいかがでしたでしょうか？

新型コロナウイルスの流行が2年にわたって続いているため、今年度はFM事業のツアーやイベントをオンライン配信の形式で開催して、様々な方々からご視聴いただき、誠に感謝申し上げます。

令和4年度も新たな試みに挑戦してまいりますので、10月発行予定の次号もご期待ください！

今号表紙の写真「津川付近の大河」

阿賀野川が、麒麟山を挟んで支流の常浪川と合流する地点を、ドローンから撮影した一枚です。写真左側に阿賀町津川の家並みと、「新河戸」と呼ばれる河港の跡、右側に麒麟橋の赤い姿が見えます。

阿賀野川え〜とこだより 第34号
発行：新潟県（※環境省補助事業）　発行日：2022年3月15日
企画編集：一般社団法人あがのがわ環境学舎（〒959-2221 阿賀野市保田3866-1）
TEL.&FAX. 0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

阿賀野川え〜とこだ!流域通信
https://aganogawa.info/
// え〜とこだよりのバックナンバーも見れます！ \\

阿賀野川えことだプロジェクト × 阿賀野川エコミュージアム

阿賀流域再発見・連続ツアー講座
「阿賀野川ものがたり」2021

開催レポート！

阿賀野川オンラインツアー

イザベラ・バードとドローンが眺めた 阿賀野川の歴史・文化・自然・現在 そして光と影

【歴史・文化編】11/27（土）

【自然・現在編】11/28（日）

参加申込み 2日間のべ 87名

FM事業で初めての オンライン配信を開催！

新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、ツアーや講座を開催できなくなったことから、今回はFM事業初のオンライン配信を2日間連続で開催しました。ジンバルカメラやドローンを駆使して撮影した動画や、流域に詳しいゲストの方々の解説など盛り沢山の内容で、当日視聴された皆さんからはリアルのツアーや対面式の講座に負けず劣らずご好評をいただきました。

当日ご覧になられた方々の感想

11月27日
●イザベラ・バードのような国外からの旅行者などの視点を通すことで、改めて阿賀野川流域や新潟の良さがあるのだと感じられた（北区・20代）／●ゲスト陣の掛け合いが面白くて楽しめた（中央区・40代）／●実際の動画や解説を通じて「日本奥地紀行」への理解が進んだ（秋葉区・60代）／●大変有意義な内容で、水辺から眺める川岸は非常に新鮮に感じた（江南区・70代）／●津川～新潟間の船からの風景は、車から見る風景とは違い、初めて見るもので興味深かった（北区・70代）

11月28日
●ドローン映像は圧巻、出演者の皆さんの掘り下げ方がすごすぎで、とても面白く視聴できた（五泉市・50代）／●すごい映像と語り。見え方が違うのと鏡のような水面に仰天。白鳥、アシの話しも素敵（新発田市・50代）／●江花さんの話は分かりやすく、新潟水俣病の経緯をおさらいできた。堀口さんのヤマビル・トーク最高だった（西区・60代）／●ドローン紀行は鳥瞰的な鳥の目線で観ているような感覚で楽しめた。川の蛇行する姿を目の当たりにする旅だった（東区・70代）

両日
●水俣病に関心があって勉強しているが、土地や歴史にも興味があったのでとても勉強になった。水俣病という公害だけに目を向けがちだったので、今回のイベントはそれだけでないことに気づかせてくれた（村上市・20代）／●水（船）・陸・空（ドローン）と、様々なアプローチでプレゼンをされており画期的（江南区・40代）

（※新潟市域は区名のみ表記しています）

イザベラ・バードの目線で

阿賀野川を上流から下流まで下ったルートを見ながら、阿賀野川の歴史・文化を語り合う

ゲスト ※上掲写真左から…

新潟イザベラ・バード研究会 代表
伊藤 頼子氏

阿賀まちづくり株式会社 代表
堀口 一彦氏

阿賀町農林課長
江花 一実氏

【歴史・文化編】
11/27（土）
15:00～17:30

バードの旅程をたどって

明治11年に来日したイギリス人旅行家イザベラ・バードが、阿賀野川流域を訪れた際のルートを、実際にたどって撮影した動画を眺めながら、阿賀野川流域の歴史・文化を語り合いました。

バードの船旅のルートを実際に撮影した船上からの映像に、ゲストの方々による解説が加わることで、普段とは異なる視点から阿賀野川を捉え直すことができました。

▲小阿賀野川を進んで…新潟へ

▲津川の河港跡から阿賀野川へ

▲新潟に滞在して町中を散策！

▲阿賀野川の上流から中流へ

当日の様子を YouTube でご覧になれます！

次のURLもしくはQRコードからご覧いただけます。

URL：https://youtu.be/NdMJIPwIJHY

▲上記以外にもゲストによる様々なプレゼン（解説）が行われました！